

内視鏡（胃カメラ）検査時の鎮静剤使用についての説明書・同意書

当院では、高画質かつ細径（外径 5.9mm）の内視鏡を用いております。一般的に経鼻挿入の場合、経口挿入時よりも咽頭のえづきなどの苦痛は軽減します。また内視鏡が細く柔らかいので、経口挿入した場合でも、従来からの内視鏡（外径 10mm 前後）に比べると、検査時の苦痛は軽減されます。経鼻・経口にかかわらず、内視鏡検査時のえづきや苦痛を軽減するコツは、心身をリラックスして、全身の力を十分に抜くことです。喉（のど）を通過する瞬間は、細くなったとはいえ、ちょっと気持ち悪いものですが、そこを過ぎてしまうと、だんだん楽になってきます。それでも、やっぱり力が入ってしまう方もいらっしゃるかと思います。そういう方には、検査時の苦痛を軽減するために、静脈注射で鎮静剤を使用することが出来ます。

鎮静剤は多量に使うと意識消失、血圧低下、呼吸抑制を引き起こしますので、その方の年齢、体格、肝機能、腎機能なども考慮して、多過ぎない量を使用します。鎮静剤の使用により、時に健忘（もの忘れ）を起こすこともあります。

（患者さんの安全に配慮し、鎮静剤使用は原則的に 65 歳までとしています。それ以上のご年齢の方は事前に診察を受けていただき医師にご相談下さい）

急性狭隅角緑内障、重症筋無力症、リトナビル（HIV プロテアーゼ阻害薬）
使用中の患者さんには投与出来ません。該当されないことをご確認下さい。

鎮静剤投与して検査した場合の注意点

血管に注射しますが、血管刺激がある薬剤で、時に血管炎を起こすことがあります。

当日、自転車・バイク・自動車を運転して来院された方には鎮静剤を投与することが出来ません。また、当日中は、薬剤の影響が出る可能性がありますので、自転車・バイク・自動車を運転をしないで下さい。

検査終了後、薬剤の効果が軽減するまで、処置室のベッドで十分に休んでいただいてから帰宅して頂きます（少なくとも 30 分以上、60 分前後を目安）。ご不安な方は同伴者にご来院いただくようお願いいたします。

以上の点について、理解いただき、同意して頂ける場合にのみ、鎮静剤を使用して検査させていただきます。

ほそだ内科クリニック 院長 細田正則

同 意 書

私は、以上の説明を熟読し理解した上で、鎮静剤を使用しての内視鏡検査を希望し、検査の実施に同意します。

年 月 日

（署名）
